

第3回会合 完全非公開

3総合病院 連携再編協 運営に疑問、批判

室蘭

室蘭市地域医療連携・再編等推進協議会(会長・青山剛市長)の第3回会合が13日夜、東町の保健センタ

で開かれた。具体的な「議事」の議論に入ったとして、「完全非公開」で行った。将来の地域医療のあり方は、医療サービスを受ける市民にも直結する問題だが、その市民には見えないまま、非公開で進む協議会の運営に批判も集まる。

この日は、市内3総合病院が現状などを意見交換したとみられる。事務局の市は「各病院の将来に関する議論。公表できない部分」と、完全非公開とした理由を説明する。

報道機関に周知せず、また、出席者にもかん口合を敷くなど、「非公開ではなく、結果的に、秘密裏と言われなくても仕方がない」(出席者の一人)。こうした運営に、医療関係者や有識者らから疑問の声も上がる。

脳神経外科領域の急性期医療を担う大川原脳神経外科病院(寿町)の大川原淳理事長は「協議会の内容は市民ベースで明らかにしないと、何を討議しているのか(市民自体が見えない)とし、「市民が、どのような医療形態を求めているのか。意見を聞けるような場も必要」と話す。

総務省・公立病院改革懇親会座長などを歴任し、地域医療構想に絡む病院再編問題などに詳しい東日本税理士法人(東京都新宿区)の長隆会長は「密室での協議は、絶対によくない。公立病院改革の中でも、あり方委員会などは公開すべき、としている」と指摘。「市民に知られては具台の悪い事実を秘匿している、ともとられかねない」と疑問を呈する。

(松岡秀宜)